



訓子府町では、豊かで住みよい町、誰もが住み続けられる町をめざし、人にやさしいまちづくりに取り組んでいます。

まちの中心部や商店街は、道路整備と商店街近代化を一体にして進め、電柱や電線は地中に埋設するなど、人と街並みが調和するよう景観を整備しました。

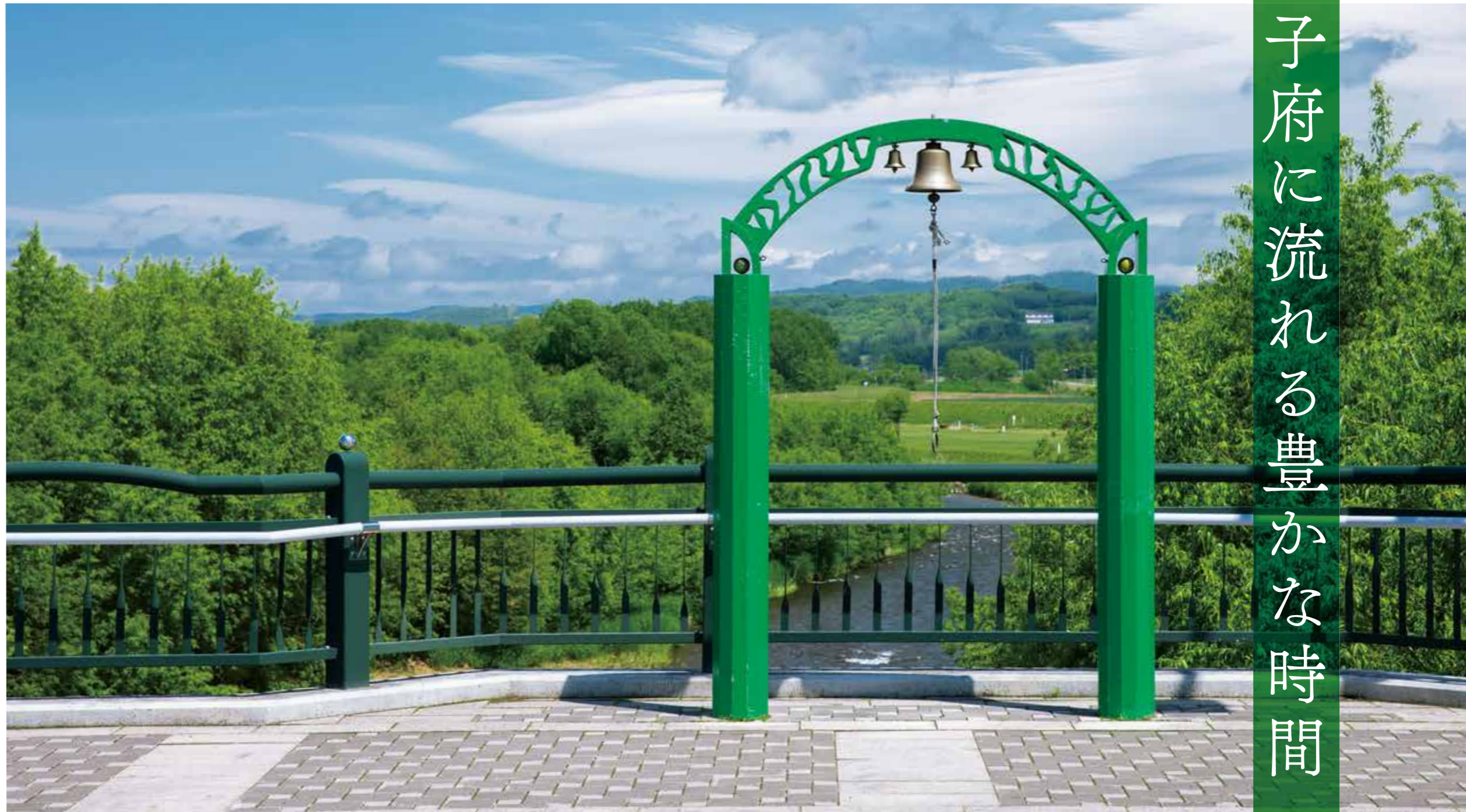
子育て支援や保健医療の充実、住環境の整備、バリアフリー化も進めており、子どもから高齢者まで安心して暮らせるまちをめざしています。

基幹産業である農業では、全国に先駆けてクリーン農業を推進しており、環境との調和と健康への配慮から減農薬や有機栽培にも取り組んでいます。



キラめく
暮
継
命
食
人と地域





訓子府に流れる豊かな時間

まちを100年以上も見守ってきた「叶橋」

訓子府町のほぼ中央を流れる常呂川に架かっている「叶橋」。市街地と末広町をつなぎ、町民の生活に欠かすことのできない橋です。これは明治42年にできた妻恋橋を架け替えたもので、昭和9年に鉄筋コンクリートの橋となり、平成8年に新たに架け替え工事をして現在に至ります。

「叶橋」の名前にちなんで、橋には夢や希望が叶うことを願って鐘を鳴らすことができる「夜明けの鐘」などのモニュメントが飾られ、未来の展望や希望を抱く4体のブロンズ像を設置しました。さらにメロンの形をした街灯、橋のたもとにはメロン型のトイレがあり、いまでは訓子府町のシンボルになりました。

訓子府町は、人にやさしい、安全・安心なまちづくりも積極的に進めています。人と街並みが調和した景観形成やバリアフリー化は、町民はもちろんのことほかの自治体からも高い評価を得ています。また、町の中心のポケットパークには「誕生」「生命」「再生」を象徴するオブジェ、町のシンボルである叶橋には4体のブロンズ像が設置されるなど、心を豊かにする芸術性も取り入れています。

このほか、福祉・教育の充実にも努めており、子育て支援・高齢者福祉サービスなどの福祉環境の整備や、幼児教育・学校教育のほか、スポーツや文化・芸術活動などの社会教育においても特色ある教育を実践しています。とりわけ図書館は7年連続8度の図書貸出率全国一を記録したこともあり、「読書・社会教育の町」としても知られています。また、農業に関しては、農業基盤整備などによる土づくり、減農薬、有機栽培にも取り組んでおり、「エコありタウン」をめざしています。エコファーマーの登録は100件を越え、環境に配慮した農産物にも注目が高まっています。

訓子府 エリアマップ





「スノーマーチ」

病害虫にも負けないジャガイモの新品種

「美味しい」を育てる、くねっぶの情熱



メイド・イン くねっぶ

全国有数のタマネギ生産地

訓子府町は、寒暖の差が大きい盆地特有の内陸性気候で、年間降水量は少なく、日照率が高いことから農業が盛んに行われています。

1919(大正8)年から栽培が始まったタマネギは、いまや全国有数の生産地となり、さまざまな種類のタマネギを栽培しています。早くから環境保全型農業にも取り組み、1987(昭和62)年より玉葱振興会では「安全、安心な消費者ニーズへの対応と農薬の低散布化に向けて低農薬栽培の生産」を開始しました。

1996(平成8)年には「訓子府町クリーン農業推進協議会」が設立され、エコファーマー認定を取得する生産者も増えています。安全で安心、そして美味しいものづくりに努めています。



スノーマーチの普及を通して
訓子府の魅力も発信したい
訓子府町馬鈴薯耕作組合 組合長
西森 孝広さん

北海道は全国一のジャガイモ(馬鈴しょ)産地で、訓子府を含む北見地区は北海道屈指の生産量を誇ります。とりわけ「男爵」は北海道を代表する品種ですが、病害虫に弱いという難点があります。ジャガイモシストセンチュウという病害虫が発生すると、被害は周辺の畑にも拡大するので、かねてより危惧されていました。

そこで北見農業試験場が育種してできたのが、新品種「スノーマーチ」です。土壌病害に抵抗力をもった品種なので、男爵産地にとっても、生産者にとっても頼もしい品種といえます。現在は北見地区を中心に流通していますが、年々



生産量も増えていることから全国的に流通する日も遠くはないでしょう。

スノーマーチは病害虫に強く、作付けや収穫がしやすいこともあって、農家にとっては救世主ともいえる品種です。特長としては、芽が浅いので皮をむきやすく、切っても変色しにくく、火の通りがよいのに煮崩れしにくいなど、調理がしやすく、とても美味しい。雪中貯蔵をすると甘みが強くなり、糖度は22度にもなります。2011(平成23)年から栽培が始まり、年々生産量も増えてきていますので、多くの人に味わってほしいですね。今はスノーマーチの栽培を拡大するとともに、物産展などイベントにも参加して認知度向上と消費拡大をめざしています。



甘く芳醇な香り、 みずみずしい夏の味覚

Kunneppu
Melon



「くんねっぶメロン」
訓子府がはぐくんだ最上級メロン

北海道はメロンの出荷量が全国2位（※平成27年野菜生産量出荷統計調査）と上位にあり、産地としても知られています。北海道農業の縮図といわれる訓子府においても、メロンは1973（昭和48）年からハウス栽培が行われています。

訓子府メロンは、有機質肥料を使って土づくりに力を入れ、食味を追求して接ぎ木することなく栽培しています。日照時間が長く、盆地特有の昼夜の気温差がある恵まれた気候を生かして、甘くて良質なメロンが生産されています。

旬は7月中旬～8月中旬。品種は赤肉のルピアレド、青肉のキングメルティを栽培しています。また、愛情と情熱をもって育てたメロンを生産者が自信と責任を持って出荷できるように、出荷時にはメロン一玉一玉に生産者名を記入したシールを貼っています。

今では訓子府を代表する特産品になったメロン。町にはメロン型の街灯や公衆トイレがあり、開基120年イメーજキョラクターとしてメロンをモチーフとした「めろねっぶ」が選ばれるなど町民に親しまれています。

町を代表する特産品をつくることに誇りと喜び

JAきたみらい
訓子府町メロン振興会会長

山田 恵美子さん



生まれも育ちも訓子府。家業の農業を継ぎ、2000（平成12）年頃からメロン栽培をしています。食べる人も生産する人も安全であることが大切だと思っていますので、有機質肥料を使い、長ネギなどの混植で病害虫を防ぐようにしています。ハウス栽培は温度・湿度の調整が難しく、芽かきなど管理作業も大変ですが、手間をかけて育てたメロンを収穫するときは、喜びと安堵でいっぱいになります。そして「メロン美味しかったよ！」なんて言われたら最高にうれしいです。ただ、メロンを生産する後継者は不足していますので、10年後も20年後も訓子府メロンを食べ続けていただけるよう努力していきます。